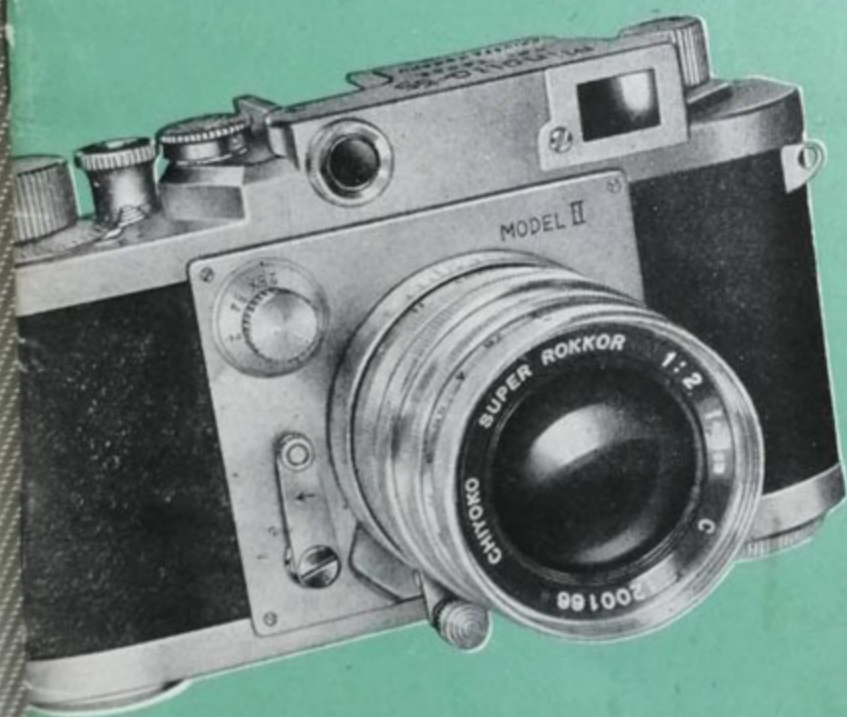


# Minolta-35

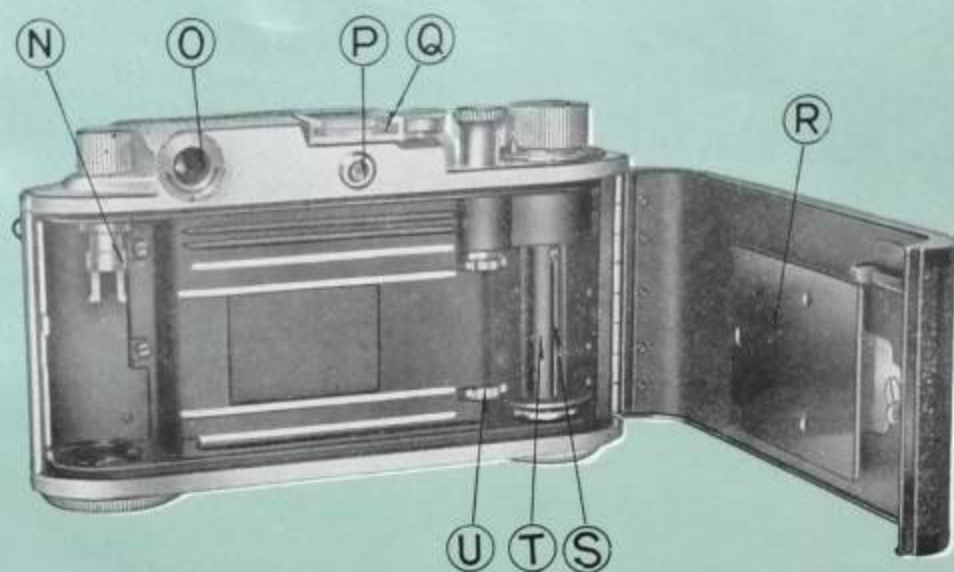
II 型



使用書



- A. フィルム捲上げノブ
- B. 撮影枚数表示盤
- C. シャッターボタン
- D. フィルム捲戻しレバー
- E. 高速シャッターダイヤル
- F. 緩速シャッターダイヤル
- G. 焦点深度目盛
- H. フィルム捲戻しノブ
- I. 裏蓋開閉鍵
- J. 焦点調節レバー



- K. 等間隔紋リング
- L. 時限調節セルフタイマー
- M. セルフタイマー始動ボタン
- N. 捲戻しシャフト
- O. レンズファインダーのぞき窓
- P. シンクロターミナル
- Q. アクセサリーシュー
- R. フィルム圧板
- S. フィルム捲取り軸
- T. フィルム挟みクリップ
- U. フィルム捲上げスプロケット

# Minolta-35 Model II

ミノルタ35は、戦後いち早くライカ型カメラの殻を破って多くの画期的な機構を採用し、最も進歩した35ミリカメラとして生まれましたが、当時その進歩的なアイデアと独創的な機構はカメラ愛好者の間に非常に好評を博しました。その後種々改良を加えE型F型を経て現在のⅡ型となり、最高級の万能カメラとしてあらゆる分野に活躍しています。

早くしかも容易にフィルムが装填できる蝶番式の裏蓋開閉、スナップに偉力を発揮する精密な一眼式連動距離計ファインダー、便利な時限調節式セルフタイマーのほか多くの優れた性能をそなえたミノルタ35Ⅱ型は、優秀なロッコール交換レンズ群と一体となって、一台でよく数台の異なるカメラの働きをします。

## ミノルタ 35 の標準レンズ

スーパーロッコールレンズは、開放絞より各絞を通じて焦面変位が少く、解像力、鮮鋭度何れも一流レンズとして最高のものであり F 2.8 は尖細な描写を F 2 は明快な威力を周辺まで発揮します。

又このレンズは、カラーフィルムに最適で色収差がなく、カラーバランスのとれた優秀品として、内外の専門家より推賞されていることはすでに御存知の通りであります。確かに一度お使いになった方は皆御満足をしておられます。スーパー ロッコールレンズには我が国最初の等間隔絞が採用されていますので、中間絞をする場合に大変便利です。又絞はクリックストップになっています。







#### 4. 絞りの調節

絞リング(K)を回して・印に適切な絞目盛を合わせます。クリップストップになっていますからカチリと止まります。又、等間隔絞になっていますから目盛の真中では中間の絞になります。



#### 5. 焦点調節

レンジファインダーのぞき窓(O)をのぞきながら、焦点調節レバー(J)を左右に回すと、レンズ部が前後進してファインダー中央の距離計の丸い像と、ファインダー全体に見える像とが重なったり離れたります。この二つの像が一つに重なった時が焦点の合ったときです。

赤外線フィルムを使用するときには距離目盛を読んでその数字を焦点深度目盛(G)のRのところまで、(F2.8 レンズでは焦点深度目盛5.6の・印まで)ずらして下さい。ファインダーの視野は、フィルムに写る範囲よりやゝ狭くとってありますから速写に便利です。

#### 6. ファインダー視度調節装置

ファインダーの接眼部を回して、あなたの視度に合わせるとファインダーが見やすくなります。



特に老眼や遠視眼の方にこの装置は大変便利です。

#### 7. フラッシュシンクロナイザー

このシンクロナイザーはドイツ式の二極式コードのプラグが使用されます。プラグをシンクロターミナル(P)に差込んで下さい。二極式ですから発光器をアクセサリシュー(Q)に取りつけても、又はカメラからはなしても同調発光します。

閃光電球はフォーカルプレーン用のF.P球を使って下さい。

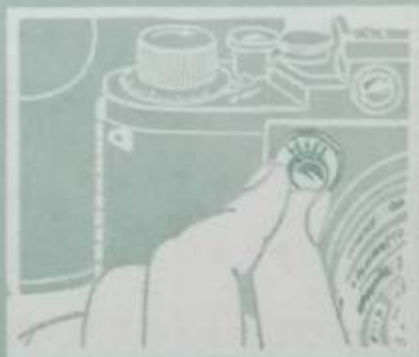
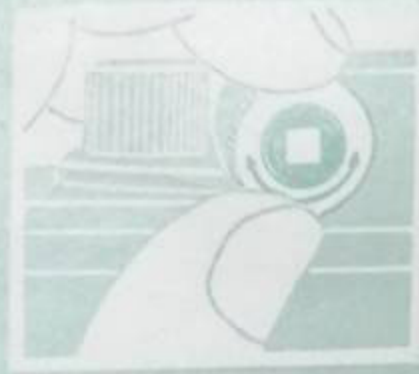
ストロボを使う場合はX接点に切り換えます。

1. 緩速シャッターダイヤルの赤Xを・印に合わせます。
2. 高速シャッターダイヤルの25を矢印に合わせます。

ストロボを使用すると、この場合 $\frac{1}{25}$ 秒に同調発光します。又高速ダイヤルを25に合わせ、緩速ダイヤルを8以下の目盛に合わせてもストロボが使えます。

#### 8. レンズの取りはずし

レンズは時計の針の反対の方向に回転するとはずれます。ミノルタ35には、ライカマウントの交換レンズはすべて取りつけて使用出来、距離計に連動します。





## フィルムの装填

1. 裏蓋を開けて下さい。上図のように裏蓋開閉鍵を回して、Openを△印に合わせて裏蓋が開きます。
2. 捲戻しノブ(H)を一ぱいに引上げてパトローネを入れ、パトローネの軸に捲戻しシャフト(N)を確実に噛ませてノブをしっかりと押し込んで下さい。捲戻しノブが入らない時はノブを少し左右に回すと入ります。
3. 捲上げノブ(A)を回して、捲取軸上のフィルム挟みクリップ(T)を上側に出し、フィルムの先端を差込みやすい位置において下さい。  
**注意** ノブが回らなくなれば、シャッターボタン(C)を押して更にノブを回し、フィルムを差込みやすい位置にして下さい。  
 次にフィルムの先端をフィルム挟みクリップに差込み、フィルム捲上げノブ(A)を軽く捲きながら、フィルムの両側の穴(パーフォ

レーション)がスプロケット(U)に完全に噛み込んでいることをたしかめて裏蓋を閉じて下さい。裏蓋開閉鍵を回してShutを△印に合わせて閉まります。

4. フィルム捲上げノブを止まるまで回してフィルムを送り、シャッターを切って下さい。これを2~3回くりかえして装填中に感光したフィルムを捲取っておきます。
5. 撮影枚数表示盤(B)についている突起を爪先で押し回し、矢印に0に合わせて下さい。1枚撮影してフィルムを捲上げるごとに1コマ進行し39枚まで表示されます。

以上でフィルム装填が終り、カメラはすぐに使用出来る状態になっています。

**注意** フィルム装填中に、シャッター膜にさわったり押えたりしないよう注意して下さい。



## 撮 影 の 仕 方

1. フィルム捲上げノブを止まる所まで回してフィルムを捲上げて下さい。自動的にシャッターがセットされます。捲戻しノブ(H)が捲上げごとに回転しているのはフィルムが進行している証拠です。
  2. シャッタースピードの目盛盤を回して御希望のスピードに合わせて下さい。
  3. 絞リング(K)を回して御希望の絞の大きさにして下さい。(次頁の絞とシャッター速度の関係を御参照下さい。)
  4. ファインダー(O)をのぞきながら焦点調節レバーを回して焦点を合わせます。
  5. カメラをしっかり握って顔に当て動かないように保持して下さい。 $\frac{1}{25}$ 秒以下のスローシャッターを切るときは、三脚を使うか適当な固定した物の上に乗せるか、そわせるかしてカメラがゆれないようにして下さい。
  6. シャッターボタン(C)を軽く徐々に押して下さい。力を入れて押すとカメラがゆれます。フォーカルブレーションシャッターは軽快な音を立て、作動し御希望の露出が得られます。
- 一度シャッターを切った後は、フィルムを捲上げなければシャッターは切れず二重露出は出来ません。

### 露出時間の決定

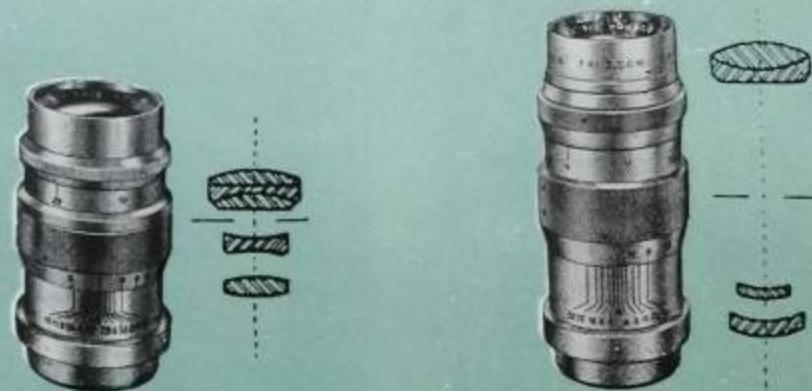
写真の撮影には正しい露出を決めることが最も大切な条件であります。露出の決定は大體光線の強弱、季節、時間、フィルムの感光度によって決められます。これらの諸条件については簡単に説明しにくく、初心者の方には反ってわずらわしくなりますから、露出計を師友として実際について体得されるのが最も早い上達の道です。

## 絞とシャッター速度の関係

レンズ鏡胴にある、2, 2.8, 4, 5.6, 8, 11, 16 の絞目盛はレンズの明るさを示したもので、この数字の小さい程明るいレンズとなります。レンズを通してフィルム面に達する光線の量は、下の図のように絞を一段変えるごとに約二倍の割合で増減します。

絞	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
光量	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{64}$	$\frac{1}{128}$

フィルム面に達する光量は、このように絞によって調節されると同時に、シャッター速度によっても変化しますから、同じ露出を与える場合でも被写体や撮影の目的によって絞とシャッター速度の組合わせを色々に変えることが出来ます。仮りに、絞 F5.6 シャッター速度  $\frac{1}{60}$ 秒が適正な露出量とします。もし運動体を撮影しようとするれば更に速いシャッター速度が必要となります。仮りにシャッター速度を  $\frac{1}{100}$ 秒にすれば光量は  $\frac{1}{60}$ 秒の半分になりますから、F 5.6、 $\frac{1}{60}$ 秒と同じ露出を与えるには絞の方は F4 にして光量を F5.6 の倍にすればよいわけです。逆に焦点深度(13頁参照)を深くするため絞を F8 に絞ると光量は F5.6 の半分になりますから、その時はシャッターを  $\frac{1}{25}$ 秒にすれば F5.6、 $\frac{1}{60}$ 秒の場合と同じだけの光線がフィルム面に達することになります。



### ミノルタ 35 用の交換レンズ

ミノルタ 35 にはあらゆる目的物に適した交換レンズが用意されています。スナップ、ポートレート、動植物のクローズアップから遠景やスポーツの撮影にロックールの持つ偉力を十二分に発揮します。ライカマウントですから他のレンズ交換の出来る35ミリカメラに御使用になっても御満足を得られます。

#### ロックール コーテッド $f=35\text{mm}$ $F:3.5$

包括角度  $63^\circ$  の広角レンズですから撮影範囲が広く、又50ミリ標準レンズに比べて焦点深度が非常に深いため、スナップに大きな偉力を発揮します。又広い写角を利用して狭い室内の撮影にも適しています。最新のコーティングによって、特にカラー撮影での忠実な色彩の表現は他の追随を許しません。

包括角度  $63^\circ$  重量 160 g. 高サ 3.8 cm. 等間隔クリックストップ絞

#### スーパー ロックール コーテッド $f=50\text{mm}$ $F:2.8$ 包括角度 $45^\circ$ 重量 230 g. 高サ 4.3 cm (標準レンズ)

#### スーパー ロックール コーテッド $f=50\text{mm}$ $F:2$ 包括角度 $45^\circ$ 重量 240 g. 高サ 5.3 cm (標準レンズ)

スーパー ロックール コーテッド  $F=85\text{mm}$   $F:2.8$   
肖像、動植物、建築物のクローズアップ及び遠景撮影の目的に最も適したレンズです。画像は標準レンズの1.7倍  
包括角度  $26^\circ$  重量 370 g. 高サ 7.6 cm

テレ ロックール コーテッド  $f=135\text{mm}$   $F:4$   
望遠レンズとして遠景、スポーツ撮影等にその望遠力を100%に発揮します。画像は標準レンズの2.7倍  
包括角度  $17^\circ$  重量 520 g. 高サ 10 cm





### オートアップレンズ

カメラの最短距離以内の近接撮影にはオートアップレンズをお使い下さい。カメラの連動機構を正確に生かした接写装置ですから、レンズに取付ければ後はファインダーをのぞいて普通と同じように焦点を合わせるだけで簡単に接写が出来ます。撮影範囲は1mから50cmまでで最短距離撮影用の視差矯正指針がついています。

### ミノルタジュニア-B.C. 発光器

1. ポケット用としての超小型ですが、積層電池使用ですから、発光器としての最高性能をもっています。
  2. 本体はプラスチックで反射傘はアルミ製13枚羽根畳込み式であり、ビニールのシンクロコード、ビニールケースが附属されてあって、非常にスマートなそして軽量の発光器です。
  3. 単3電池二本を入れて使うことも出来ます。(その時は発光器のターミナル位置を変えて下さい)。
  4. 閃光球の断線及び電池の良否を点検するテストランプがありますから、不良閃光球又は不良電池による失敗はありません。
  5. 使用済閃光球は、発光器上部のピンを押せば、自動的に放出できますから火傷等の危険が一切ありません。
- 注意 スワッチを

### 簡易露出表

春秋 快晴 F8 パンクロフィルム

時間 被写体	6-6	7-5	8-4	9-3	10-2	11-1 12-1
展けた山・海	1/50	1/100	1/200	1/500	1/1000	1/1000
展けた風景	1/35	1/50	1/100	1/200	1/200	1/500
普通風景	1/25	1/35	1/50	1/100	1/200	1/200
明るい街路	1/4	1/8	1/25	1/50	1/100	1/100
近い風景	1/2	1/4	1/8	1/25	1/50	1/50
直射日光下の人物	1/2	1/4	1/8	1/25	1/50	1/50
薄暗い風景 軒下人物	1	1/2	1/4	1/8	1/8	1/8
明るい室内 窓際の人物	3	2	1	1/2	1/4	1/4

時間の欄 左が午前 右が午後 露出時間は秒  
 明るい曇天の場合 約2倍 冬は2倍 夏は1/2  
 他の絞による場合 次の比較表で調節する  
 F 2 2.8 4 5.6 ⑧ 11 16 22  
 割合 1/16 1/8 1/4 1/2 1 2 4 8倍



千代田光学精工株式会社